

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 幼一種免 ）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・教育する立場にたつて学校現場を体験し、子ども・学校理解をはかり、教師の職務を理解する。 ・教員の視点に立って子どもと教育現場を体験的に理解するとともに、教職キャリア形成への意識を持つ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・小学校の教科内容を理解する。 ・幼・小・中・特支の学校現場を体験し、教育的コミュニケーション能力の育成をはかる。 ・幼稚園見学を通して、幼児教育の基本を体験的に理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・初等授業の実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・授業以外の場面を含めた幼児・児童・生徒と教員・学校の様子について体験的に理解する。 ・幼児教育の歴史や発達の過程に関する知識など、教育課程に関する事項を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・指導案をチームを組んで作成し、授業を行う。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程と教育課程の意義及び編成との概要について理解する。 ・保育内容に関する基本的な考え方や指導の方法を理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・保育内容に関する基本的な考え方や指導の方法を理解する。 ・幼児の発達や幼児教育の理論に関してより多面的に理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかになった学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・幼児の心身の発達に関する現代的教育課題等について理解する。 ・幼児の発達や理論に関する具体的な課題を追及する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・幼児に関する理論や実践の場を通じて、幼児やその教育に関する理解を深める。 ・幼稚園教育実習や保育ボランティアを通して、具体的な幼児指導について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・これまでの研究成果を踏まえて、幼児の心理や教育に関して一段と理解を深める。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 幼一種免 ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	領域及び 保育内容の指導法 に関する科目	大学が独自に設 定する科目	施行規則第66条の6 に関する科目	その他教職課程に関連 のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	幼児と健康Ⅰ		体育実技Ⅰ	
		2	E	幼児・児童発達論	幼児と人間関係		英語A	
		2	G	幼児教育課程論			日本国憲法	
		1-1	A	保育内容(人間関係)			情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	幼児と言葉		英語B	
		2	E	児童・生徒発達論			体育実技Ⅱ	
		1-1	A	保育内容(健康)			情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	幼児と健康Ⅱ	教育統計Ⅰ		
		2	E	教育心理学	幼児と表現Ⅱ			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学(情報通信技術の活用を含む。)				
		1-1	A	保育内容(表現Ⅱ)				
	後期	3	O	幼児理解の理論と方法	幼児と表現Ⅰ			幼小連携教育論
		3	M	教育相談				
		1-1	A	保育内容(環境)				
		1-1	A	保育内容(言葉)				
		1-1	A	保育内容(表現Ⅰ)				
3年次	前期				幼児と環境	人権教育論		幼小連携教育研究法
	後期	1-1	A	保育内容総論		道德教育と学級経営		幼小連携教育演習
	通年	4		小学校教育実習Ⅰ				
		4		小学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習(幼・小・中・高)				

様式第 7 号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 小一種免 ）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・教育する立場にたって学校現場を体験し、子ども・学校理解をはかり、教師の職務を理解する。 ・教員の視点に立って子どもと教育現場を体験的に理解するとともに、教員という仕事への意欲や関心を持つ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・幼・小・中・特支の学校現場を体験し、教育的コミュニケーション能力の育成をはかる。 ・授業をおこなうために必要な教科の基礎的知識やスキルを身に付けるとともに内容について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・初等授業の実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・授業をおこなうために必要な教科の基礎的知識やスキルを身に付けるとともに内容について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・指導案をチームを組んで作成し、授業を行う。 ・教科に関する演習を通じて、教材研究能力の向上を中心に教育実習に向けての実践力を養う。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験、実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・教育実習を通じて、教材研究能力だけでなく、子ども理解、生徒指導等の実践力を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかになった学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・児童生徒の心身の発達に関する現代的な教育課題等について理解する。 ・児童生徒の心身の発達に関する現代的な教育課題等について理解する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・演習を通じて、教科または、学校教育全般の諸課題に関して、理解を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的な教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的な教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・教科または、学校教育全般の諸課題に関して、自己の課題として設定し、追求する。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 小一種免 ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等		教科及び教科の指導法に関する科目		大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	小学音楽	教育実践フィールド演習Ⅰ	体育実技Ⅰ	
					小学国語（書写を含む。）		英語A	
					小学体育Ⅰ		日本国憲法	
					小学英語		情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	初等数学		英語B	
					小学体育Ⅱ		体育実技Ⅱ	
					小学ピアノ		情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	小学家庭			
		2	E	教育心理学				
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	初等国語科教育法				
		1	A	初等社会科教育法				
		1	A	算数科教育法				
		1	A	初等音楽科教育法				
		1	A	初等家庭科教育法				
		1	A	初等外国語教育法				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	小学社会	教育実践フィールド演習Ⅱ		小中連携教育内容研究
		3	M	教育相談	初等理科講義及び実験			
		1	A	初等理科教育法				
		1	A	図工科教育法				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	小学図画	教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論				
		1	A	生活科教育法				
		1	A	体育科教育法				
	後期				生活科概説			
					小学工作			
	通年	4		小学校教育実習Ⅰ				
		4		小学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（国語） ）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・日本語、日本文学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・日本語、日本文学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連づけて理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連づけて理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・中学校国語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・中学校国語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・教育実習に取り組み、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・教育実習に取り組み、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免(国語) ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	国語学概論		体育実技Ⅰ	
					国文学論(国文学史を含む。)		英語A	
					中国文学概説		日本国憲法	
					書道Ⅰ		情報基礎概論	
					書道Ⅱ			
	後期	2	C	教職概論	書写		英語B	
							体育実技Ⅱ	
							情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	国文学演習Ⅰ			
		2	E	教育心理学	中国古典学演習Ⅰ			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学(情報通信技術の活用を含む。)				
		1	A	中等国語科教育法Ⅱ				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	国語学演習Ⅰ	教育実践フィールド演習Ⅱ		
		3	M	教育相談	国語学演習Ⅱ			
					国文学演習Ⅱ			
					中国古典学演習Ⅱ			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論				
		1	A	中等国語科教育法Ⅰ				
	後期	1	A	中等国語科教育法Ⅲ	国語表現論			小中連携教育内容研究
		1	A	中等国語科教育法Ⅳ				
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習(幼・小・中・高)				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・社会科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・社会科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・社会科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・社会科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・社会科を構成する内容について、教育の場で活かすことができるようになる。 ・ワークショップ型の授業実践を試みることができるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・社会科を構成する内容について、より深く理解・分析し、教育の場で活かせる力量を育成する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・社会科を構成する内容の理解・応用について、継続的・発展的な深化を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・社会科を構成する内容の理解・応用について、継続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（社会） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	西洋史要説		体育実技Ⅰ	
					人文地理学要説		英語A	
					法学要説		日本国憲法	
					政治学要説		情報基礎概論	
					倫理学要説			
					哲学要説			
	後期	2	C	教職概論	日本史要説		英語B	
					東洋史要説		体育実技Ⅱ	
					社会学要説		情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	経済学要説			
		2	E	教育心理学				
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	中等社会科教育法Ⅱ（社会・公民）				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	自然地理学要説	教育実践フィールド演習Ⅱ		小中連携教育学
		3	M	教育相談	地誌学要説			
		1	A	中等社会科教育法Ⅰ（社会・地歴）				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		教育実践フィールド演習Ⅲ		
		3	L,N	生徒・進路指導論				
		1	A	中等社会科教育法Ⅲ（社会・地歴）				
		1	A	中等社会科教育法Ⅳ（社会・公民）				
	後期							小中連携教育内容研究
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

<教育学部学校教育課程> (認定課程: 中一種免(数学))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史・制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかにした学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（数学） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	代数学基礎Ⅰ		体育実技Ⅰ	
					幾何学基礎Ⅰ		英語A	
					解析学基礎Ⅰ		日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	代数学基礎Ⅱ		英語B	
					幾何学基礎Ⅱ		体育実技Ⅱ	
					解析学基礎Ⅱ		情報基礎演習Ⅰ	
					コンピュータ			
2年次	前期	2	B,G	教育原論	確率論基礎			
		2	E	教育心理学	統計学基礎			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	数学科教育法Ⅰ				
	後期	3	H	道徳教育の理論と実践		教育実践フィールド演習Ⅱ		
		3	M	教育相談				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育内容研究
		3	L,N	生徒・進路指導論				
		1	A	数学科教育法Ⅱ				
		1	A	数学科教育法Ⅳ				
	後期	1	A	数学科教育法Ⅲ	解析学研究Ⅰ			小中連携教育学
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期				解析学研究Ⅱ			
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）	解析学研究Ⅲ			

様式第7号ウ

<教育学部学校教育課程> (認定課程: 中一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・理科全般を学ぶ上での基盤となるコンピュータ活用による解析法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・自然現象との関連など理科に関する一般知識を習得する。 ・生物学・地学に関する基礎知識を習得する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史・制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・初等授業の実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・物理学・化学に関する基礎知識を習得する。 ・生物学・地学に関する実験技法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・物理学・化学に関する実験技法を習得する。 ・理科教育法(教材・教具・コミュニケーション等)についての基礎知識や技法を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験、実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・物理学・化学・生物学・地学に関する専門知識を習得する。 ・理科教育法(教材・教具・コミュニケーション等)についての応用知識や技法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかになった学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・児童生徒の心身の発達に関する現代的な教育課題等について理解する。 ・物理学・化学・生物学・地学に関する発展的内容を習得する。 ・理科教育法(教材・教具・コミュニケーション等)についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（理科） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	物理学概論A		体育実技Ⅰ	
					生物学概論B		英語A	
							日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	物理学概論B		英語B	
					化学概論B		体育実技Ⅱ	
					生物学概論A		情報基礎演習Ⅰ	
					地学概論A			
2年次	前期	2	B,G	教育原論	物理学実験			
		2	E	教育心理学	化学概論A			
		2	F	特別支援教育の基礎	生物学実験			
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	地学概論B			
		1	A	中等理科教育法Ⅰ				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	化学実験	教育実践フィールド演習Ⅱ		小中連携教育内容研究
		3	M	教育相談	地学実験			
					量子物理			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	エネルギー科学	教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論				
		1	A	中等理科教育法Ⅱ				
	後期	1	A	中等理科教育法Ⅲ				
		1	A	中等理科教育法Ⅳ				
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第 7 号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（音楽） ）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・音楽理論の概観やソルフェージュなどの学習を通して、これから音楽教育を学ぶ際の基礎力を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・ソルフェージュに加えて歌唱表現および器楽表現に関わる基礎的な技能を身に付ける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・1年次に学んだ歌唱や器楽の技能をさらに発展させ、合唱や合奏のアンサンブル感覚を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・音楽史の知識を身に付けるとともに、1年次に学んだ音楽理論の知識にもとづいて作曲法の実践能力の基礎を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・歌唱や器楽の技能および音楽理論の実践力の更なる深化を目指すとともに、音楽科教育の理論と方法についての知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかになった学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・歌唱や器楽の技能および音楽理論の実践力の更なる深化を目指すとともに、音楽科教育における実践力と応用力を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・教育実習を視野にいれながら、これまで学んできた音楽の専門的技能や知識を総合し、学校教育現場で応用できる実践力を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・音楽および音楽教育に関する研究課題を明確にし、これまでの学習成果を統合した卒業研究をまとめる。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（音楽） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	ソルフェージュⅠ		体育実技Ⅰ	
					声楽Ⅰ		英語A	
					ピアノⅠ		日本国憲法	
					音楽基礎理論		情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	ソルフェージュⅡ		英語B	
					声楽Ⅱ		体育実技Ⅱ	
					音楽理論演習		情報基礎演習Ⅰ	
					日本・民族音楽概説			
					ピアノⅡ			
2年次	前期	2	B,G	教育原論	作曲法・編曲法			
		2	E	教育心理学	音楽史Ⅰ			
		2	F	特別支援教育の基礎	ピアノⅢ			
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	中等音楽科教育法Ⅰ				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	合唱	教育実践フィールド演習Ⅱ		小中連携教育内容研究
		3	M	教育相談	合奏			
					ピアノⅣ			
		1	A	中等音楽科教育法Ⅱ				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	伴奏法Ⅰ	教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論	日本伝統音楽実習Ⅰ			
		1	A	中等音楽科教育法Ⅲ	指揮法Ⅰ			
					ピアノⅤ			
	後期	1	A	中等音楽科教育法Ⅳ	日本伝統音楽実習Ⅱ			
					ピアノⅥ			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期				ピアノⅦ			
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（保健体育） ）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・大学の実技に触れ、基本的な身のこなしを再学習するとともに、動きの実験・実習を通して実証する学問に触れさせる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・教育的コミュニケーションの場について体験的に理解する。 ・実技授業や実験実習で身体と運動についての理解を深めるとともに、健康に関する基礎的概念を理解させる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・多くのスポーツ種目実技を経験し、運動種目の多様性と種目による指導技術の違いと共通点を認識させる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・実技指導の観点からだけでなく、学級経営や学校経営の視点からも「体育」を捉えられるようにする。 ・中学校学習指導要領ならびに学習指導要領解説書（保健体育編）の概要を理解するとともに、その指導課題を、生理学、心理学等の学問知識に結びつけて理解できるようにする。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・学習指導要領の保健内容を理解するとともに、適切な教材づくりと授業運営ができるようにする。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・保健体育科教育における実践的な運動指導方法の基礎と教材のあり方について理解するとともに、その視点で、実技を再学習することで、指導の力量を高める。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・3年までに培った体育指導の理論を念頭に、教員採用試験を目指して、得意種目の指導法の精錬や不得意種目の克服を目指す。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・4年次の教育実習で実践された保健体育授業を振り返り、学習指導案の作成方法やその内容を深め、「課題解決力」を身につけさせる。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（保健体育） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	器械運動		体育実技Ⅰ	
					水泳		英語A	
					陸上競技		日本国憲法	
					ゴール型球技		情報基礎概論	
					ダンス			
					体育経営管理学			
					解剖・生理学			
					衛生・公衆衛生学			
	後期	2	C	教職概論	体づくり運動		英語B	
					ネット型・ベースボール型球技			
					柔道		体育実技Ⅱ	
					剣道		情報基礎演習Ⅰ	
					体育概論			
2年次	前期	2	B,G	教育原論				
		2	E	教育心理学				
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践		教育実践フィールド演習Ⅱ		
		3	M	教育相談				
		1	A	保健体育科教育法Ⅰ				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	運動学	教育実践フィールド演習Ⅲ		
		3	L,N	生徒・進路指導論	運動方法学演習			
		1	A	保健体育科教育法Ⅱ				
		1	A	保健体育科教育法Ⅲ				
	後期				体育心理学			小中連携教育学
					学校保健			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							小中連携教育内容研究
	後期	1	A	保健体育科教育法Ⅳ				
		4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第 7 号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免(技術) ）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・木材加工の基礎について理解できるとともに、木材加工を通してものづくりの基礎を理解できる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・モノをつくるための発案から製作に至るまでの流れを理解し、製図の基礎を理解できる。 ・金属材料とその加工技術、農業についての基本的概念と栽培技術、情穀の概念と情報技術の基礎的事項について理解できる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・技術及びそれに関わる労働の世界を知り、技術・職業教育の概観を理解できる。 ・木材加工、栽培、機械、電気についての基礎知識を理解できる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・主に我が国の学校教育における「技術教育」の歩みについて、社会背景と関連づけて理解できる。 ・機械、金属加工、電気、情報についての発展的な内容を理解し、技術および技能を体得できる。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談(カウンセリング含)に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談(カウンセリング含)に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験、・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・加工技術の発展的な内容を体得するとともに、各専門領域の発展的な内容について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・各自の専門領域の発展的な内容について体得できる。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（技術） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会			体育実技Ⅰ	
							英語A	
							日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論			英語B	
							体育実技Ⅱ	
							情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	金属加工学			
		2	E	教育心理学	応用木工芸			
		2	F	特別支援教育の基礎	機械工学Ⅰ			
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	電気工学Ⅰ			
		1	A	中等技術科教育法Ⅰ				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	生活機器製図	教育実践フィールド演習Ⅱ		
		3	M	教育相談	電気工学Ⅱ			
		1	A	中等技術科教育法Ⅱ	電子回路			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	プログラミング実習	教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育内容研究
		3	L,N	生徒・進路指導論	栽培学			小中連携教育学
		1	A	中等技術科教育法Ⅲ	映像デザインⅡ			
	後期	1	A	中等技術科教育法Ⅳ	機械工学実習			
					電気工学実習			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（家庭） ）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・被服学の基礎的知識を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・家庭経営学・食物学・保育学の基礎的知識を理解する。 ・被服学の実験実習では原理を理解するとともに、基礎的な知識・技能を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・家庭経営学・被服学・食物学と人や家族とのかかわりを含めた発展的・応用的知識を理解する。 ・食物学の実験実習では、原理を理解するとともに、基礎的な知識・技能を身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・住居学の基礎的知識を理解する。 ・住居学の実験実習では原理を理解するとともに、基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・食物学の実験実習では、理論を深めるとともに、発展的・応用的な知識や技能を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・住居学・保育学と人や家族とのかかわりを含めた発展的・応用的知識を理解する。 ・被服学の実験実習では、理論を深めるとともに、発展的・応用的な知識や技能を身に付ける。 ・実際の家庭生活における家庭経営学・被服学・食物学・住居学・保育学を理解するとともに、それらが教育実習で指導できるようにする。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（家庭） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会			体育実技Ⅰ	
							英語A	
							日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	被服学Ⅰ		英語B	
					食物学Ⅰ		体育実技Ⅱ	
					住居学Ⅰ		情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	食物学Ⅱ			
		2	E	教育心理学	保育学			
		2	F	特別支援教育の基礎	被服実習			
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	中等家庭科教育法Ⅰ				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	被服学Ⅱ	教育実践フィールド演習Ⅱ		
		3	M	教育相談				
		1	A	中等家庭科教育法Ⅱ				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	生活経営学	教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育内容研究
		3	L,N	生徒・進路指導論	住居計画・設計実習			小中連携教育学
		1	A	中等家庭科教育法Ⅲ				
	後期	1	A	中等家庭科教育法Ⅳ	食物学演習			
					住居学演習			
					保育学演習			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（英語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・英語のコミュニケーション能力とは何かを理解し、自律的な学習を開始する。 ・異文化理解の視点を持って、英語文化についての知識を収集する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・音声言語を中心に、英語の四技能を高める。 ・英語文化にさらに慣れ親しみ、異文化とは何かを理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・英語音声学、英文法、英作文の演習により、さらに英語の知識・技能を高める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・英語音声学、英文法、英作文、異文化間コミュニケーションの演習により、さらに英語の知識・技能を高める。 ・異文化理解の視点を持って、英語文化についての知識を収集する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習にむけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・英語学概論、英米文学論等により、専門的なさらに英語の知識・技能を高める。 ・英語授業についての認識を深め、学習指導要領を理解し、教育実習の準備に入る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・英語学概論、英米文学論等により、専門的な知識・技能をさらに充実させる。 ・英語授業についての認識を深め、模擬授業などを行って、教育実習に備える。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・これまでの専門教育を基礎に、英語論文構成の認識を高める。 ・教育実習の体験と認識を深め、英語教員に求められる実践力と理論的基盤を結びつける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・それぞれの専門教育における課題の探究を目指し、卒業論文に着手し、英語論文構成の実践をおこなう。 ・教職実践演習により教員の認識を高め、英語教員として教育現場の課題に取り組むことができるように認識を高める。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 中一種免（英語） ）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	英語文学講読Ⅰ		体育実技Ⅰ	
							英語A	
							日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	英語音声学演習Ⅰ		英語B	
					英語オーラルコミュニケーションⅡ		体育実技Ⅱ	
					異文化理解論		情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	英語コミュニケーション論			
		2	E	教育心理学	英米文化事情Ⅰ			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	英語科教育法Ⅰ				
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	英語音声学	教育実践フィールド演習Ⅱ		小中連携教育内容研究
		3	M	教育相談	英語文学演習Ⅰ			
		1	A	英語科教育法Ⅱ	英語アカデミックスピーキングⅠ			
					英語文学講読Ⅲ			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	英語学概論Ⅰ	教育実践フィールド演習Ⅲ		小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論	英語文学論Ⅰ			
		1	A	英語科教育法Ⅲ	異文化理解Ⅰ			
	後期	1	A	英語科教育法Ⅳ	英語学概論Ⅱ			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（国語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・日本語、日本文学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・日本語、日本文学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連づけて理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連づけて理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・高等学校国語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・高等学校国語科教育の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・教育実習に取り組み、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・教育実習に取り組み、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（国語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	国語学概論		体育実技Ⅰ	
					国文学論（国文学史を含む。）		英語A	
					中国文学概説		日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論			英語B	
							体育実技Ⅱ	
							情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	国文学演習Ⅰ			
		2	E	教育心理学	中国古典学演習Ⅰ			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	中等国語科教育法Ⅱ				
	後期	3	M	教育相談	国語学演習Ⅰ			
					国語学演習Ⅱ			
					国文学演習Ⅱ			
					中国古典学演習Ⅱ			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	国語学演習Ⅲ			小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論	国文学演習Ⅲ			
		1	A	中等国語科教育法Ⅰ				
	後期	1	A	中等国語科教育法Ⅲ	国語表現論			小中連携教育内容研究
		1	A	中等国語科教育法Ⅳ	中国古典学演習Ⅳ			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（地理歴史））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・地歴科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・地歴科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・地歴科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・地歴科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・地歴科を構成する内容について、教育の場で活かすことができるようになる。 ・ワークショップ型の授業実践を試みることができるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・地歴科を構成する内容について、より深く理解・分析し、教育の場で活かせる力量を育成する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・地歴科を構成する内容の理解・応用について、継続的・発展的な深化を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・地歴科を構成する内容の理解・応用について、継続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（地理歴史））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	西洋史要説		体育実技Ⅰ	
					人文地理学要説		英語A	
					日本史特別講義Ⅰ		日本国憲法	
					西洋史特別講義		情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	日本史要説		英語B	
					東洋史要説		体育実技Ⅱ	
					日本史特別講義Ⅱ		情報基礎演習Ⅰ	
					日本史特別講義Ⅲ			
					日本史特別講義Ⅳ			
					日本史特別講義Ⅴ			
2年次	前期	2	B,G	教育原論				
		2	E	教育心理学				
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
	後期	3	M	教育相談	自然地理学要説			小中連携教育学
		1	A	中等社会科教育法Ⅰ（社会・地歴）	地誌学要説			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	西洋史演習Ⅰ			
		3	L,N	生徒・進路指導論	西洋史演習Ⅲ			
		1	A	中等社会科教育法Ⅲ（社会・地歴）				
	後期				西洋史演習Ⅱ			小中連携教育内容研究
					西洋史演習Ⅳ			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第 7 号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 高一種免（公民））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・公民科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・公民科を構成する内容について、基礎的知識と視点を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・公民科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・公民科を構成する内容について、深く理解・分析し、それを説明できるようになる。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・公民科を構成する内容について、教育の場で活かすことができるようになる。 ・ワークショップ型の授業実践を試みることができるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・公民科を構成する内容について、より深く理解・分析し、教育の場で活かせる力量を育成する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・公民科を構成する内容の理解・応用について、継続的・発展的な深化を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・公民科を構成する内容の理解・応用について、継続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（公民））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	法学要説		体育実技Ⅰ	
					政治学要説		英語A	
					社会学要説		日本国憲法	
					倫理学要説		情報基礎概論	
					哲学要説			
	後期	2	C	教職概論	法学特別講義		英語B	
							体育実技Ⅱ	
							情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	経済学要説			
		2	E	教育心理学				
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	中等社会科教育法Ⅱ（社会・公民）				
	後期	3	M	教育相談				小中連携教育学
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	法学演習Ⅰ			
		3	L,N	生徒・進路指導論	法学演習Ⅲ			
		1	A	中等社会科教育法Ⅳ（社会・公民）	倫理学演習Ⅰ			
					倫理学演習Ⅲ			
	後期				法学演習Ⅱ			小中連携教育内容研究
					法学演習Ⅳ			
					倫理学演習Ⅱ			
					倫理学演習Ⅳ			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免(数学)）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかにした学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集团的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	代数学基礎Ⅰ		体育実技Ⅰ	
					幾何学基礎Ⅰ		英語A	
					解析学基礎Ⅰ		日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	代数学基礎Ⅱ		英語B	
					幾何学基礎Ⅱ		体育実技Ⅱ	
					解析学基礎Ⅱ		情報基礎演習Ⅰ	
					解析学Ⅰ			
					コンピュータ			
2年次	前期	2	B,G	教育原論	確率論基礎			
		2	E	教育心理学	統計学基礎			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	数学科教育法Ⅰ				
	後期	3	M	教育相談	代数学Ⅰ			
					幾何学Ⅰ			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				小中連携教育内容研究
		3	L,N	生徒・進路指導論				
		1	A	数学科教育法Ⅱ				
	後期				解析学研究Ⅰ			小中連携教育学
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期				解析学研究Ⅱ			
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）	解析学研究Ⅲ			

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・理科全般を学ぶ上での基盤となるコンピュータ活用による解析法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・自然現象との関連など理科に関する一般知識を習得する。 ・生物学・地学に関する基礎知識を習得する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・初等授業の実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・物理学・化学に関する基礎知識を習得する。 ・生物学・地学に関する実験技法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・物理学・化学に関する実験技法を習得する。 ・理科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての基礎知識や技法を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・物理学・化学・生物学・地学に関する専門知識を習得する。 ・理科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての応用知識や技法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかになった学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・児童生徒の心身の発達に関する現代的な教育課題等について理解する。 ・物理学・化学・生物学・地学に関する発展的内容を習得する。 ・理科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	物理学概論A		体育実技Ⅰ	
					生物学概論B		英語A	
							日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	物理学概論B		英語B	
					化学概論B		体育実技Ⅱ	
					生物学概論A		情報基礎演習Ⅰ	
					地学概論A			
2年次	前期	2	B,G	教育原論	物理学実験			
		2	E	教育心理学	化学概論A			
		2	F	特別支援教育の基礎	生物学実験			
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	地学概論B			
		1	A	中等理科教育法Ⅰ				
	後期	3	M	教育相談	化学実験			小中連携教育内容研究
					地学実験			
					量子物理			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	エネルギー科学			小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論	物理化学			
		1	A	中等理科教育法Ⅱ				
	後期	1	A	中等理科教育法Ⅲ				
		1	A	中等理科教育法Ⅳ				
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（音楽））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・音楽理論の概観やソルフェージュなどの学習を通して、これから音楽教育を学ぶ際の基礎力を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・ソルフェージュに加えて歌唱表現および器楽表現に関わる基礎的な技能を身に付ける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・1年次に学んだ歌唱や器楽の技能をさらに発展させ、合唱や合奏のアンサンブル感覚を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・音楽史の知識を身に付けるとともに、1年次に学んだ音楽理論の知識にもとづいて作曲法の実践能力の基礎を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・歌唱や器楽の技能および音楽理論の実践力の更なる深化を目指すとともに、音楽科教育の理論と方法についての知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・教育実習での授業実践を振り返り、明らかになった学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・歌唱や器楽の技能および音楽理論の実践力の更なる深化を目指すとともに、音楽科教育における実践力と応用力を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・教育実習を視野にいれながら、これまで学んできた音楽の専門的技能や知識を総合し、学校教育現場で応用できる実践力を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・音楽および音楽教育に関する研究課題を明確にし、これまでの学習成果を統合した卒業研究をまとめる。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（音楽））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	ソルフェージュⅠ		体育実技Ⅰ	
					声楽Ⅰ		英語A	
					ピアノⅠ		日本国憲法	
					音楽基礎理論		情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	ソルフェージュⅡ		英語B	
					音楽理論演習		体育実技Ⅱ	
					日本・民族音楽概説		情報基礎演習Ⅰ	
					ピアノⅡ			
2年次	前期	2	B,G	教育原論	作曲法・編曲法			
		2	E	教育心理学	音楽史Ⅰ			
		2	F	特別支援教育の基礎	ピアノⅢ			
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	声楽Ⅲ			
		1	A	中等音楽科教育法Ⅰ				
	後期	3	M	教育相談	合唱			小中連携教育内容研究
		1	A	中等音楽科教育法Ⅱ	合奏			
					ピアノⅣ			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	伴奏法Ⅰ			小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論	日本伝統音楽実習Ⅰ			
		1	A	中等音楽科教育法Ⅲ	指揮法Ⅰ			
					ピアノⅤ			
	後期	1	A	中等音楽科教育法Ⅳ	日本伝統音楽実習Ⅱ			
					ピアノⅥ			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期				ピアノⅦ			
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（書道））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・日本語、日本文学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・日本語、日本文学、漢文学、書写等の教科内容の基礎について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連づけて理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・教科指導の基礎を学び、教科内容の基礎と関連づけて理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・高等学校芸術科書道の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・高等学校芸術科書道の目標・内容・方法・評価を理解し、学習指導を構想する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・教育実習に取り組み、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・教育実習に取り組み、自他の実践を省察し、国語科教育内容や教育方法の持続的・発展的な深化を図る。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（書道））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	書道Ⅰ		体育実技Ⅰ	
					書道Ⅱ		英語A	
					国文学論（国文学史を含む。）		日本国憲法	
					中国文学概説		情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	書写		英語B	
					書道史		体育実技Ⅱ	
					書論・鑑賞		情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	国文学演習Ⅰ			
		2	E	教育心理学	中国古典学演習Ⅰ			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
	後期	3	M	教育相談				
		1	A	書道科教育法Ⅰ	国文学演習Ⅱ			
					中国古典学演習Ⅱ			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	国文学演習Ⅲ			小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論	中国古典学演習Ⅲ			
		1	A	書道科教育法Ⅱ				
	後期				中国古典学演習Ⅳ			小中連携教育内容研究
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期				高校書道・国語概論とその研究			
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（保健体育））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・大学の実技に触れ、基本的な身のこなしを再学習するとともに、動きの実験・実習を通して実証する学問に触れさせる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・教育的コミュニケーションの場について体験的に理解する。 ・実技授業や実験実習で身体と運動についての理解を深めるとともに、健康に関する基礎的概念を理解させる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・多くのスポーツ種目実技を経験し、運動種目の多様性と種目による指導技術の違いと共通点を認識させる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・実技指導の観点からだけでなく、学級経営や学校経営の視点からも「体育」を捉えられるようにする。 ・中学校学習指導要領ならびに学習指導要領解説書（保健体育編）の概要を理解するとともに、その指導課題を、生理学、心理学等の学問知識に結びつけて理解できるようにする。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単元あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・学習指導要領の保健内容を理解するとともに、適切な教材づくりと授業運営ができるようにする。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・保健体育科教育における実践的な運動指導方法の基礎と教材のあり方について理解するとともに、その視点で、実技を再学習することで、指導の力量を高める。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・3年までに培った体育指導の理論を念頭に、教員採用試験を目指して、得意種目の指導法の精錬や不得意種目の克服を目指す。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・4年次の教育実習で実践された保健体育授業を振り返り、学習指導案の作成方法やその内容を深め、「課題解決力」を身につけさせる。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（保健体育））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	器械運動		体育実技Ⅰ	
					水泳		英語A	
					陸上競技		日本国憲法	
					ネット型・ベースボール型球技		情報基礎概論	
					ダンス			
					体育経営管理学			
					解剖・生理学			
					衛生・公衆衛生学			
	後期	2	C	教職概論	体づくり運動		英語B	
					ゴール型球技		体育実技Ⅱ	
					柔道		情報基礎演習Ⅰ	
					剣道			
					体育概論			
2年次	前期	2	B,G	教育原論				
		2	E	教育心理学				
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
	後期	3	M	教育相談	野外・レクリエーション実習	教育実践フィールド演習Ⅱ		
		1	A	保健体育科教育法Ⅰ				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	運動学	教育実践フィールド演習Ⅲ		
		3	L,N	生徒・進路指導論	運動方法学演習			
		1	A	保健体育科教育法Ⅱ	バイオメカニクス			
		1	A	保健体育科教育法Ⅲ				
	後期				体育心理学			小中連携教育学
					学校保健			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							小中連携教育内容研究
	後期	1	A	保健体育科教育法Ⅳ				
		4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（家庭））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・被服学の基礎的知識を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・家庭経営学・食物学・保育学の基礎的知識を理解する。 ・被服学の実験実習では原理を理解するとともに、基礎的な知識・技能を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・家庭経営学・被服学・食物学と人や家族とのかかわりを含めた発展的・応用的知識を理解する。 ・食物学の実験実習では、原理を理解するとともに、基礎的な知識・技能を身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習むけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・住居学の基礎的知識を理解する。 ・住居学の実験実習では原理を理解するとともに、基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・食物学の実験実習では、理論を深めるとともに、発展的・応用的な知識や技能を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・住居学・保育学と人や家族とのかかわりを含めた発展的・応用的知識を理解する。 ・被服学の実験実習では、理論を深めるとともに、発展的・応用的な知識や技能を身に付ける。 ・実際の家庭生活における家庭経営学・被服学・食物学・住居学・保育学を理解するとともに、それらが教育実習で指導できるようにする。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

様式第7号ウ（教諭）

<教育学部学校教育課程>（認定課程：高一種免（家庭））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会			体育実技Ⅰ	
							英語A	
							日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	被服学Ⅰ		英語B	
					食物学Ⅰ		体育実技Ⅱ	
					住居学Ⅰ		情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	食物学Ⅱ			
		2	E	教育心理学	保育学			
		2	F	特別支援教育の基礎	被服実習			
		3	K	教育方法学(情報通信技術の活用を含む。)	生活機器学			
		1	A	中等家庭科教育法Ⅰ				
	後期	3	M	教育相談	被服学Ⅱ			
		1	A	中等家庭科教育法Ⅱ				
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	生活経営学			小中連携教育内容研究
		3	L,N	生徒・進路指導論	住居計画・設計実習			小中連携教育学
		1	A	中等家庭科教育法Ⅲ				
	後期	1	A	中等家庭科教育法Ⅳ	食物学演習			
					住居学演習			
					保育学演習			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習(幼・小・中・高)				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（英語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・英語のコミュニケーション能力とは何かを理解し、自律的な学習を開始する。 ・異文化理解の視点を持って、英語文化についての知識を収集する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・教科内容を理解する。 ・音声言語を中心に、英語の四技能を高める。 ・英語文化にさらに慣れ親しみ、異文化とは何かを理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・英語音声学、英文法、英作文の演習により、さらに英語の知識・技能を高める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・小学校と中学校の科目内容の接続のためにどのような教育内容や教材研究をすればよいのかを理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・英語音声学、英文法、英作文、異文化間コミュニケーションの演習により、さらに英語の知識・技能を高める。 ・異文化理解の視点を持って、英語文化についての知識を収集する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかり、教育実習にむけての準備を行う。 ・教育相談（カウンセリング含）に関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験・実習・演習を通じ、教材研究能力の向上をはかる。 ・教育実習にむけての実践力を養うために、中学校教育現場を体験する。 ・小学校と中学校の教科の相互指導のあり方を、具体的な教育内容に即して理解する。 ・課題に基づく1単位あたりの授業の指導案の作成と授業開発をすることができる。 ・英語学概論、英米文学論等により、専門的なさらに英語の知識・技能を高める。 ・英語授業についての認識を深め、学習指導要領を理解し、教育実習の準備に入る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、児童生徒の発達について、より発展的に理解する。 ・中学校教育現場での体験学習をもとに、学習指導、教科指導に関する課題を設定する。 ・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・英語学概論、英米文学論等により、専門的な知識・技能をさらに充実させる。 ・英語授業についての認識を深め、模擬授業などを行って、教育実習に備える。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・これまでの専門教育を基礎に、英語論文構成の認識を高める。 ・教育実習の体験と認識を深め、英語教員に求められる実践力と理論的基盤を結びつける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・それぞれの専門教育における課題の探究を目指し、卒業論文に着手し、英語論文構成の実践をおこなう。 ・教職実践演習により教員の認識を高め、英語教員として教育現場の課題に取り組むことができるように認識を高める。

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：高一種免（英語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等		科目名称	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項					
1年次	前期	2	D	現代の教育と社会	英語文学講読Ⅰ		体育実技Ⅰ	
							英語A	
							日本国憲法	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概論	英語音声学演習Ⅰ		英語B	
					英語オーラルコミュニケーションⅡ		体育実技Ⅱ	
					異文化理解論		情報基礎演習Ⅰ	
2年次	前期	2	B,G	教育原論	英語コミュニケーション論			
		2	E	教育心理学	英米文化事情Ⅰ			
		2	F	特別支援教育の基礎				
		3	K	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）				
		1	A	英語科教育法Ⅰ				
	後期	3	M	教育相談	英語音声学			小中連携教育内容研究
		1	A	英語科教育法Ⅱ	英語文学演習Ⅰ			
					英語アカデミックスピーキングⅠ			
					英語文学講読Ⅲ			
3年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	英語学概論Ⅰ			小中連携教育学
		3	L,N	生徒・進路指導論	英語文学論Ⅰ			
		1	A	英語科教育法Ⅲ	異文化理解Ⅰ			
	後期	1	A	英語科教育法Ⅳ	英語学概論Ⅱ			
					英語文学論Ⅱ			
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（幼・小・中・高）				

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程： 特支一種免（知・肢・病））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課題についての基礎的理解を図る。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・教育する立場にたつて学校現場を体験し、子ども・学校理解をはかり、教師の職務を理解する。 ・特別支援教育（障害児教育）の基礎及び教育・教職についての基礎的理解を図る。 ・入学早期のフレッシュな感覚を持つ状態で、特別支援学校の現場を体験し自らの教職キャリア形成への意識を高めさせ、教育実習の準備モチベーション確立を図る。 ・知的障害者の生理病理について基礎的な知識を得る。 ・視覚障害、聴覚障害に関して入門的な学習を行う。 ・小学校教員の課程の入門的な部分を学ぶ。 ・自閉症の特性に関して基礎的な部分を学ぶ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・小学校の教科内容を理解する。 ・幼・小・中・特支の学校現場を体験し、教育的コミュニケーション能力の育成をはかる。 ・前期の学習を基盤に特別支援教育の各領域の基礎的理解を進める。 ・特別支援教育の意義及び支援の役割について理解する。 ・病虚弱児の特性や教育について理解する。 ・障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程と教育課程の意義及び編成との概要について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理念・歴史、制度の理解、及び子どもの発達とその支援にむけた教育的働きかけについての基本的理解をはかる。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・初等授業の実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・特別支援教育の対象となる児童生徒の心理を中心に支援の基礎を学ぶとともに小学校免許の各教科に関して理解を進める。 ・特別支援教育における検査法について理解する。 ・演習をとおして、知的障害児を中心にその心理学や教育方法について理解を深める。 ・授業以外の場面を含めた幼児・児童・生徒と教員・学校の様子について体験的に理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校各教科の教材指導法について理解し、教育実習における課題を自ら発見・追求し教職への意欲を高める。 ・LDや自閉症など発達障害児の教育について理解する。 ・障害者への心理治療と重度重複障害者への教育に関する基礎理解を進める。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び、カウンセリングに関する基礎的理解をはかり、基礎的教育実習を行う。 ・教科指導法について理解し、指導案作成力を育成する。 ・カウンセリングに関する基礎的理解をはかる。 ・教科に関する実験、実習・演習を通じ、教材研究能力の向上を中心に、基礎的教育実習むけての実践力を養う。 ・肢体不自由児者の生理病理、学習指導法、知的障害者の心理について理解し、現場でそれらの知識を役立てる事ができるように学習及びスキルを深める。 ・障害児の学習指導法について学ぶ。 ・知的障害児の心理について学ぶ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ならびに教科外指導、生徒指導について理解する。 ・学習指導要領について理解する。 ・道徳教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・指導案をチームを組んで作成し、授業を行う。 ・障害児教育の学習指導、心理治療法や重度重複障害児の心理と教育について理解し、基礎的事項を学び、現場でそれらを活用できるようにスキルを深める。 ・教育実習の準備的段階に参加し、特別支援学校での指導の実際についてある程度学び、自ら指導ができるようにスキルを深める。 ・障害者の心理治療法について理解する。 ・障害児教育の重度重複障害児の心理と教育について理解する。 ・基礎的教育実習における課題を追求する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・3年次までに学習した小学校各教科、特別支援学校各領域の学習の総まとめを行い、採用試験に向けて知識のおさらい及び面接試験に向けての準備を十分に行う。 ・障害心理学実験を受講し、知能検査、学習能力検査等の実施及び評価について学ぶ。 ・特別支援学校での諸活動に積極的に参加し、日々の指導、教育課程について積極的に学ぶ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・教職実践演習を受講し、4年前期までに学んだ全ての内容を復習し、不足の点を洗い出す。 ・実際に学校現場で児童生徒の指導にあたる上で必要な知識技能にさらに磨きをかけ、不足の点を洗い出し、それを補充するように努める。 ・社会人として必要なスキルについても改めて見直し、不足の点を充足する。

様式第7号ウ（特支）

＜教育学部学校教育課程＞（認定課程：特支一種免（知・肢・病））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称									
		基礎となる教諭の免許状に関する履修カリキュラム						特別支援教諭免許状に関する履修カリキュラム		その他教職課程に関連のある科目	
		教育の基礎的理解に関する科目等		教科(領域)に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	特別支援教育に関する科目				
年次	時期	科目 目	必 要				科目名称	科目 目	中 心	科目名称	
1 年次	前期	2	D	現代の教育と社会	小学声楽	教育実践フィールド演習Ⅰ	体育実技Ⅰ	1		特別支援教育総論	
					小学国語(書写を含む。)		英語A	5	視	視覚障害者の整理・病理	
					小学体育Ⅰ		日本国憲法				
					小学英語		情報基礎概論				
	後期	2	C	教職概論	初等数学		英語B				
					小学体育Ⅱ		体育実技Ⅱ	2	病	病弱者・情緒障害者の心理・生理・病理	
				小学ピアノ		情報基礎演習Ⅰ	5		障害児心理学		
2 年次	前期	2	B,G	教育原論	小学家庭			2	知	知的障害児心理学	
		2	E	教育心理学							
		2	F	特別支援教育の基礎							
		3	K	教育方法学(情報通信技術の活用を含む。)							
		1	A	初等国語科教育法							
		1	A	初等社会科教育法							
		1	A	算数科教育法							
		1	A	初等音楽科教育法							
		1	A	初等家庭科教育法							
		1	A	初等外国語教育法							
	後期	3	H	道德教育の理論と実践	小学社会	教育実践フィールド演習Ⅱ		2	肢	肢体不自由者の心理・生理・病理	
		3	M	教育相談	初等理科講義及び実験			3	肢	障害児学習指導法Ⅱ	
		1	A	初等理科教育法							
		1	A	図工科教育法							
3 年次	前期	3	I,J	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	小学図画	教育実践フィールド演習Ⅲ		3	知	障害児学習指導法Ⅰ	
		3	L,N	生徒・進路指導論				3	病	障害児学習指導法Ⅲ	
		1	A	生活科教育法				5	LD	発達障害児心理療法	
		1	A	体育科教育法							
	後期				生活科概説			2	知	知的障害者の生理・病理	
					小学工作			3	知	障害児の心理臨床と指導法	
								5	聴	聴覚障害者の整理・病理	
								6	LD	重複障害教育論	
	通年	4		小学校教育実習Ⅰ							
		4		小学校教育実習Ⅱ							
4 年次	前期										
	後期	4		教職実践演習(幼・小・中・高)							
	通年						8		障害児教育実習		

＜芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科＞（認定課程：中一種免（美術））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>美術・工芸を理論・実践の両面から理解する。また、美術と工芸の関係や、日本と西洋の共通点や相違点などを理解することにより、芸術活動の根幹を成す考え方を築く学期である。具体的な到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆、水彩絵具の使い方や写生、版画表現などの方法を理論や実践を通じて学ぶことで、美術・工芸の幅広い創造活動を支える描画の基本を理解し、自ら実践できる。画材や道具の安全な使用法と手入れ方法を知る。 ・アイデアの発想方法とイメージを色や形で表す方法を知り、デザインや他の造形活動の際に自ら実践できる。 ・テーマから発想し、素材やメディアを選ぶ方法を理解し、平面や立体造形活動の際に自ら実践できる。 ・逆に素材やメディアから発想し、テーマを選ぶ方法を理解し、工芸制作や他の造形活動の際に自ら実践できる。 ・西洋、東洋、日本の美術史を知る。世界観の違いや様々な作家の創作活動の動機を理解する。
	後期	<p>美術・工芸の各専門分野すべてを広く体験し、それぞれの分野の基本を学ぶことで、他分野どうしの基本を組み合わせるなどし、独自の工夫につなげる柔軟な発想力の源を作る学期である。具体的な到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋画、日本画の基本的な技法を知る。身の回りの自然や人物描写ができる。 ・粘土を用いた彫刻表現の基本（発想、触覚感、観察法）を知る。石膏の使い方を知る。 ・主にコンピュータを使ったデジタル表現（映像処理、CG、Webプログラミングなど）の世界を知り、基本的な演習を体験する。 ・陶土や木材、布や染料の特性を知る。道具の安全な使用法と手入れができる。 ・デザインの広義を理解し、コンテンツの発掘方法と企画方法を知る。
2年次	前期	<p>美術・工芸の選択分野の理論や技法を入門的に体験する。基礎的演習では学べない奥深さや問題発見、問題解決のために創意工夫する楽しさを体験することで、継続的創作意欲を育てる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写生からコラージュまで、西洋画や日本画の基本的技法を知る。 ・彫刻の要素である量感、動勢、均衡、面などを知る。 ・視覚伝達デザインの基本概念を理解する。また、映像表現の企画、撮影、編集、加工の流れを体験し理解する。 ・染色・漆・木工・金属工芸・窯芸・プロダクト成型などの工芸領域から選択して体験し、その基本的な理念や作業工程を理解する。 ・基本的作図法を理解し、作品制作の必要に応じた作図力を身につける。 ・暮らしの中の工芸やその歴史や思想（日本やアジア、伝統工芸から現代工芸）を理解する。
	後期	<p>美術・工芸の選択分野の理論や技法を専門的に体験する。併行して、別の美術・工芸の専門分野を入門的に体験することで、横断的な思考力、実践力を育む学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真の撮影方法から、絵画制作への活用方法までを体験し理解する。 ・頭像などの具象作品を制作し、様々な観点から観察する方法を理解することで、観念的観察や観念的表現から脱する方法を知る。 ・造形基礎のための形態と色彩に関する基礎概念を理解し、理性的で秩序ある構成、配色ができる。 ・染色・漆・木工・金属工芸・窯芸・プロダクト成型などの工芸領域から選択して体験し、その基本的な理念や作業工程を理解する。 ・美術の専門領域の講義を通じて美術の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統美術や現代美術）を理解する。
3年次	前期	<p>美術・工芸の選択分野の理論や技法を更に専門的に深めると同時に、基礎的事項の反復訓練の重要性にも回帰することで、専門的実践力を支える基本的な手わざの重要性を再認識させる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな表現力の礎となる様々なドローイングを多数経験する。 ・講義と実技を通して、彫刻の要素である量感、動勢、均衡、面などの概念を理解する。 ・思考力、発想力、造形力をいかし、映像、音響、身体など多彩なメディアを使ったプレゼンテーションを多数経験し、その基本的な理念や方法を理解する。 ・染色・漆・木工・金属工芸・窯芸・プロダクト成型などの工芸領域から選択して体験し、その基本的な理念や作業工程を理解する。 ・美術や工芸の専門領域の講義を通じて美術の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統美術や現代美術）をより深く理解する。
	後期	<p>美術・工芸の選択分野の理論や技法をクリティカルな視点から専門的に見る方法を学び、また、継続して、別の美術・工芸の専門分野を入門的に体験することで、横断的な思考力と客観的視点を取り入れた実践力を育てる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真表現、絵画表現、コラージュ表現を通じ、作品の概念構築ができる。 ・彫刻の要素である量感、動勢、均衡、面などを意識的に操作した作品作りができる。 ・クライアントの依頼を想定した構想、提案（情報を視覚化、構造化したWebコンテンツ等）ができる。 ・美術や工芸の専門領域の講義を通じて美術の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統美術や現代美術）をより深く理解する。
4年次	前期	1～3年生で学んだことを継続することで、美術・工芸の世界を体系的に理解し、かつ専門性を高めることができる。鑑賞において、自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術・工芸の働きについて理解する。
	後期	日本・西洋・アジアの作品の鑑賞や造形活動の実践を通して、自然と美術・工芸のかかわりや生活や社会を心豊かにする美術・工芸の働きについて理解する。

＜芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科＞(認定課程:中一種免(美術))

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	芸術表現基礎(絵画)		英語A	
					芸術表現基礎(彫刻)		情報基礎概論	
					地域デザイン基礎(デザイン)			
					芸術表現基礎(工芸)			
	後期	2	C	教職概説	美術史基礎		日本国憲法	
					芸術表現A(日本画)		英語B	
					芸術表現A(西洋画)		デジタル表現基礎	
					芸術表現A(彫刻)			
					デザイン発想論			
					デジタル表現基礎			
					芸術表現B(窯芸)			
					芸術表現B(染色工芸)			
					芸術表現B(漆・木工芸)			
2年次	前期	2	B	教育原理	工芸理論		英語C	
		2	E	発達と学習の心理学	彫刻基礎			
		2	D	社会教育概論Ⅰ	彫刻Ⅰa			
		2	B	教育史				
		1	A	中等美術科教育法Ⅰ				
		1	A	中等美術科教育法Ⅱ				
	後期	3	F	特別支援教育概論	デザイン基礎		英語D	
		3	IJ	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	彫刻Ⅱa			
		3	LM	生徒・進路指導の理論と方法(中等)				
3年次	前期	2	G	教育課程論	彫刻Ⅰb		体育実技Ⅰ	
		3	K	教育方法論(情報通信技術の活用を含む。)	彫刻概論			
		3	H	道德教育の理論と方法				
		3	N	教育相談の理論と方法(中等)				
	後期	1	A	中等美術科教育法Ⅲ	彫刻Ⅱb		体育実技Ⅱ	
		1	A	中等美術科教育法Ⅳ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習(中・高)				
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
	通年	4		中学校教育実習Ⅱ				

＜芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科＞（認定課程：高一種免（美術））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>美術を理論・実践の両面から理解する。また、日本と西洋の共通点や相違点などを理解することにより、芸術活動の根幹を成す考え方を築く学期である。具体的な到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆、水彩絵具の使い方や写生、版画表現などの方法を、理論や実践を通じて学ぶことで、美術の幅広い創造活動をを支える描画の基本を理解し、自ら実践できる。画材や道具の安全な使用法と手入れ方法を知る。 ・アイデアの発想方法とイメージを色や形で表す方法を知り、デザインや他の造形活動の際に自ら実践できる。 ・テーマから発想し、素材やメディアを選ぶ方法を理解し、平面や立体造形活動の際に自ら実践できる。 ・西洋、東洋、日本の美術史を知る。世界観の違いや様々な作家の創作活動の動機を理解する。
	後期	<p>美術とデザインの各専門分野すべてを広く体験し、それぞれの分野の基本を学ぶことで、他分野どうしの基本を組み合わせるなどし、独自の工夫につなげる柔軟な発想力の源を作る学期である。具体的な到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋画、日本画の基本的な技法を知る。身の回りの自然や人物描写ができる。 ・粘土を用いた彫刻表現の基本（発想、触覚感、観察法）を知る。石膏の使い方を知る。 ・主にコンピュータを使ったデジタル表現（映像処理、CG、Webプログラミング）の世界を知り、基本的な演習を体験する。 ・デザインの広義を理解し、コンテンツの発掘方法と企画方法を知る。
2年次	前期	<p>美術とデザインの選択分野の理論や技法を入門的に体験する。基礎的演習では学べない奥深さや問題発見、問題解決のために創意工夫する楽しさを体験することで、継続的創作意欲を育てる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写生からコラージュまで、西洋画や日本画の基本的技法を知る。 ・彫刻の要素である量感、動勢、均衡、面などを知る。 ・視覚伝達デザインの基本概念を理解する。映像表現の企画、撮影、編集、加工の流れを体験し理解する。 ・演習科目の中で行う講義を通じて美術の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統美術や現代美術）を知る。
	後期	<p>美術やデザインの選択分野の理論や技法を専門的に体験する。併行して、別の美術やデザインの専門分野を入門的に体験することで、横断的な思考力、実践力を育む学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真の撮影方法から、絵画制作への活用方法までを体験し理解する。 ・頭像などの具象作品を制作し、様々な観点から観察する方法を理解することで、観念的観察や観念的表現から脱する方法を知る。 ・造形基礎のための形態と色彩に関する基礎概念を理解し、理性的で秩序ある構成、配色ができる。 ・美術の専門領域の講義を通じて美術の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統美術や現代美術）を理解する。
3年次	前期	<p>美術やデザインの選択分野の理論や技法を更に専門的に深めると同時に、基礎的事項の反復訓練の重要性にも回帰することで、専門的実践力を支える基本的な手わざの重要性を再認識させる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな表現力の礎となる様々なドローイングを多数経験する。 ・講義と実技を通して、彫刻の要素である量感、動勢、均衡、面などの概念を理解する。 ・思考力、発想力、造形力をいかし、映像、音響、身体など多彩なメディアを使ったプレゼンテーションを多数経験し、その基本的な理念や方法を理解する。 ・美術の専門領域の講義を通じて美術の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統美術や現代美術）をより深く理解する。
	後期	<p>美術やデザインの選択分野の理論や技法をクリティカルな視点から専門的に見る方法を学び、また、継続して、別の美術・工芸の専門分野を入門的に体験することで、横断的な思考力と客観的視点を取り入れた実践力を育てる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真表現、絵画表現、コラージュ表現を通じ、作品の概念構築ができる。 ・彫刻の要素である量感、動勢、均衡、面などを意識的に操作した作品制作ができる。 ・クライアントの依頼を想定した構想、提案（情報を視覚化、構造化したWebコンテンツ等）ができる。 ・美術の専門領域の講義を通じて美術の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統美術や現代美術）をより深く理解する。
4年次	前期	<p>1～3年生で学んだことを継続することで、美術やデザインの世界を体系的に理解し、かつ専門性を高めることができる。鑑賞において、自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術やデザインの働きについて理解する。</p>
	後期	<p>日本・西洋・アジアの作品の鑑賞や造形活動の実践を通して、自然と美術のかかわり、生活や社会を心豊かにするデザインの働きについて理解を深める。また、日本の美意識や伝統と文化について理解する。</p>

＜芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科＞(認定課程:高一種免(美術))

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	芸術表現基礎(絵画)		英語A	
					芸術表現基礎(彫刻)		情報基礎概論	
					地域デザイン基礎(デザイン)			
	後期	2	C	教職概説	美術史基礎		日本国憲法	
					芸術表現A(日本画)		英語B	
					芸術表現A(西洋画)		デジタル表現基礎	
					芸術表現A(彫刻)			
					デザイン発想論			
					デジタル表現基礎			
2年次	前期	2	B	教育原理	工芸理論		英語C	
		2	E	発達と学習の心理学	彫刻基礎			
		2	D	社会教育概論Ⅰ	彫刻Ⅰa			
		2	B	教育史				
		1	A	中等美術科教育法Ⅰ				
	後期	3	F	特別支援教育概論	デザイン基礎		英語D	
		3	IJ	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	彫刻Ⅱa			
		3	LM	生徒・進路指導の理論と方法(中等)				
3年次	前期	2	G	教育課程論	彫刻Ⅰb		体育実技Ⅰ	
		3	K	教育方法論(情報通信技術の活用を含む。)	彫刻概論			
		3	H	教育相談の理論と方法(中等)				
	後期	1	A	中等美術科教育法Ⅲ	彫刻Ⅱb		体育実技Ⅱ	
		1	A	中等美術科教育法Ⅳ				
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習(中・高)				
	通年	4		高等学校教育実習				
	通年							

＜芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科＞（認定課程：高一種免（工芸））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>工芸を理論・実践の両面から理解する。また、工芸と美術の関係や、日本と西洋の共通点や相違点などを理解することにより、芸術活動の根幹を成す考え方を築く学期である。具体的な到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆などを使った描画方法を理論や実践を通じて学ぶことで、工芸の幅広い創造活動をを支える描画の基本を理解し、自ら実践できる。画材や道具の安全な使用法と手入れ方法を知る。 ・アイデアの発想方法とイメージを色や形で表す方法を知り、デザインや他の造形活動の際に自ら実践できる。 ・素材から発想し、テーマを決定する選ぶ方法を理解し、工芸制作や他の造形活動の際に自ら実践できる。 ・西洋、東洋、日本の美術史を知る。世界観の違いや様々な作家の創作活動の動機を理解する。
	後期	<p>工芸とデザインの各専門分野すべてを広く体験し、それぞれの分野の基本を学ぶことで、他分野どうしの基本を組み合わせるなどし、独自の工夫につなげる柔軟な発想力の源を作る学期である。具体的な到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にコンピュータを使ったデジタル表現（映像処理、CG、Webプログラミング）の世界を知り、基本的な演習を体験する。 ・陶土や木材、布や染料の特性を知る。道具の安全な使用法と手入れができる。 ・デザインの広義を理解し、コンテンツの発掘方法と企画方法を知る。
2年次	前期	<p>工芸とデザインの選択分野の理論や技法を入門的に体験する。基礎的演習では学べない奥深さや問題発見、問題解決のために創意工夫する楽しさを体験することで、継続的創作意欲を育てる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚伝達デザインの基本概念を理解する。また、映像表現の企画、撮影、編集、加工の流れを体験し理解する。 ・染色・漆・木工・金属工芸・窯芸・プロダクト成型などの工芸領域から選択して体験し、その基本的な理念や作業工程を理解する。 ・基本的作図法を理解し、作品制作の必要に応じた作図力を身につける。 ・暮らしの中の工芸やその歴史や思想（日本やアジア、伝統工芸から現代工芸）を理解する。
	後期	<p>工芸やデザインの選択分野の理論や技法を専門的に体験する。併行して、別の工芸やデザインの専門分野を入門的に体験することで、横断的な思考力、実践力を育む学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形基礎のための形態と色彩に関する基礎概念を理解し、理性的で秩序ある構成、配色ができる。 ・染色・漆・木工・金属工芸・窯芸・プロダクト成型などの工芸領域から選択して体験し、その基本的な理念や作業工程を理解する。 ・工芸の専門領域の講義を通じて工芸の各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統工芸や現代工芸）を理解する。
3年次	前期	<p>工芸やデザインの選択分野の理論や技法を更に専門的に深めると同時に、基礎的事項の反復訓練の重要性にも回帰することで、専門的実践力を支える基本的な手わざの重要性を再認識させる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力、発想力、造形力をいかし、映像、音響、身体など多彩なメディアを使ったプレゼンテーションを多数経験し、その基本的な理念や方法を理解する。 ・染色・漆・木工・金属工芸・窯芸・プロダクト成型などの工芸領域から選択して体験し、その基本的な理念や作業工程を理解する。 ・デザインコンセプトを踏まえた形態を第三者に正確に伝えるための製図ができる。 ・工芸の専門領域の講義を通じて各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統工芸や現代工芸）をより深く理解する。
	後期	<p>工芸やデザインの選択分野の理論や技法をクリティカルな視点から専門的に見る方法を学び、また、継続して、別の美術・工芸の専門分野を入門的に体験することで、横断的な思考力と客観的視点を取り入れた実践力を育てる学期である。具体的な各選択分野の到達目標の観点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クライアントの依頼を想定した構想、提案（石膏型を活用したプロダクト制作など）ができる。 ・用と美のバランスを考慮した作品（商品等）の企画立案ができる。 ・工芸の専門領域の講義を通じて各専門分野における歴史や思想（西洋やアジア、日本の伝統工芸や現代工芸）をより深く理解する。
4年次	前期	<p>1～3年生で学んだことを継続することで、工芸やデザインの世界を体系的に理解し、かつ専門性を高めることができる。鑑賞において、自然と工芸とのかかわり、生活や社会を心豊かにする工芸やデザインの働きについて理解する。</p>
	後期	<p>日本・西洋・アジアの工芸作品やデザインの鑑賞や造形活動の実践を通して、自然と工芸やデザインとのかかわり、生活や社会を心豊かにする工芸やデザインの働きについて理解を深める。また、日本の工芸の特質や美意識、工芸の伝統と文化や現代のデザインについて理解する。</p>

様式第7号ウ(教諭)

＜芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科＞(認定課程:高一種免(工芸))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	芸術表現基礎(工芸)		英語A	
					地域デザイン基礎(デザイン)		情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概説	図法		日本国憲法	
					芸術表現B(窯芸)		英語B	
					芸術表現B(染色工芸)		デジタル表現基礎	
					芸術表現B(漆・木工芸)			
					デザイン発想論			
					デジタル表現基礎			
2年次	前期	2	B	教育原理	工芸理論		英語C	
		2	E	発達と学習の心理学	製図			
		2	D	社会教育概論Ⅰ	石膏型成型Ⅰ			
		2	B	教育史	視覚伝達デザインⅠ			
					金属工芸Ⅰa			
	後期	1	A	工芸科教育法Ⅰ	デザイン基礎		英語D	
		3	F	特別支援教育概論	石膏型成型Ⅱ			
		3	IJ	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	窯芸基礎			
		3	LM	生徒・進路指導の理論と方法(中等)	金属工芸Ⅱa			
3年次	前期	2	G	教育課程論	石膏型成型Ⅲ		体育実技Ⅰ	
		3	K	教育方法論(情報通信技術の活用を含む。)	染色工芸基礎			
		3	H	教育相談の理論と方法(中等)				
	後期	1	A	工芸科教育法Ⅱ	漆・木工芸基礎		体育実技Ⅱ	
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習(中・高)				
	通年	4		高等学校教育実習				
	通年							

様式第7号ウ(教諭)

＜経済学部経営学科＞(認定課程:高一種免(商業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・商業(経営・会計)の基礎知識を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・商業(経営・情報)の基礎知識を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・商業(経営・会計・情報)の内容について深く理解・分析する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・商業(経営・会計)の内容について深く理解・分析する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する。 ・商業科教育法(教材・教具・コミュニケーション等)についての基礎知識や技法を理解する。 ・商業高校における職業指導について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科教育法(教材・教具・コミュニケーション等)についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・商業各教科・商業科教育法の理解をもとに商業科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に迫り及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・商業各教科・商業科教育法の理解をもとに商業科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

<経済学部経営学科>（認定課程：高一種免（商業））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科および教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	基本経営学		体育実技Ⅰ	
					基本簿記会計		英語A	
							情報基礎概論	
							日本国憲法	
	後期	2	C	教職概説	マーケティングマネジメント		体育実技Ⅱ	
					社会情報論		英語B	
					企業論		情報処理	
					経営管理論			
2年次	前期	2	B	教育原理	プログラミング		英語C	
		2	B	教育史	原価計算論			
		2	D	社会教育概論Ⅰ	経営組織論			
		2	E	発達と学習の心理学	経営労務論			
	後期	2	F	特別支援教育概論	流通経済論	教育統計Ⅰ	英語D	
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	管理会計論			
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	経営戦略論			
3年次	前期	2	G	教育課程論	ファイナンス論	人権教育論		
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	ブランド戦略論			
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	経営情報論			
					流通産業論			
					経営史			
					職業指導（商業）			
					商業科教育法Ⅰ			
	後期				財務会計論	教育評価		
					経営財務論	道德教育と学級経営		
					商業科教育法Ⅱ			
4年次	前期	4		高等学校教育実習				
	後期	4		教職実践演習（中・高）				

＜理工学部・理工学科＞（認定課程：中一種免（数学）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・教科内容を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
2年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解し、指導案を作成することができる。
3年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・道徳教育の理論と指導方法について理解する。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
	後期	・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）
<理工学科>（認定課程：中一種免（数学））
(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	線形代数学Ⅰa		日本国憲法	
					微分積分学Ⅰa		体育実技Ⅰ	
					データサイエンスⅠ		英語A	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概説	線形代数学Ⅱa		体育実技Ⅱ	応用数理科学
					微分積分学Ⅱa		英語B	
					データサイエンスⅡ			
					コンピュータプログラミング			
2年次	前期	2	B	教育原理	代数学基礎Ⅰ			
		2	E	発達と学習の心理学	代数学基礎Ⅰ 演習			
					集合・位相Ⅰ			
					集合・位相Ⅰ 演習			
					解析学基礎Ⅰ			
					解析学基礎Ⅰ 演習			
					応用数学			
					情報数理			
					プログラミング概論Ⅰ			
					プログラミング演習Ⅰ			
	後期	2	F	特別支援教育概論	代数学基礎Ⅱ	教育統計Ⅰ		数理科学英語
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	代数学基礎Ⅱ 演習			
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	集合・位相Ⅱ			
					集合・位相Ⅱ 演習			
					解析学基礎Ⅱ			
					解析学基礎Ⅱ 演習			
					数値解析			
					情報理論			
					離散数学・オートマトン			
					数学科教育法Ⅰ			
	前期	2	G	教育課程論	代数学Ⅰ	人権教育論		
		3	H	道徳教育の理論と方法	代数学演習			
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	幾何学Ⅰ			
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	幾何学演習			
					解析学Ⅰ			
					解析学演習			
					微分方程式論Ⅰ			
					微分方程式論演習			
					複素関数論Ⅰ			
					複素関数論演習			
					人工知能概論			
					人工知能実験			
	後期				数学科教育法Ⅱ			
					数学科教育法Ⅳ			
					代数学Ⅱ	道徳教育と学級経営		
					幾何学Ⅱ	教育評価		
					解析学Ⅱ			
					微分方程式論Ⅱ			
					複素関数論Ⅱ			
					数理統計学			
					確率解析学			
					データサイエンス演習			
					実践データサイエンス			
					ゲーム理論と最適化手法			
					数学科教育法Ⅲ			
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				卒業研究

＜理工学部・理工学科＞（認定課程：高一種免（数学）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・教科内容を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。
2年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・中等の授業実践について理解し、授業を行うための必要な知識やスキルを身につける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解し、指導案を作成することができる。
3年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
	後期	・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）
<理工学科>（認定課程:高一種免(数学)）
(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	線形代数学Ⅰa		日本国憲法	
					微分積分学Ⅰa		体育実技Ⅰ	
					データサイエンスⅠ		英語A	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概説	線形代数学Ⅱa		体育実技Ⅱ	応用数理科学
					微分積分学Ⅱa		英語B	
					データサイエンスⅡ			
					コンピュータプログラミング			
2年次	前期	2	B	教育原理	代数学基礎Ⅰ			
		2	E	発達と学習の心理学	代数学基礎Ⅰ 演習			
					集合・位相Ⅰ			
					集合・位相Ⅰ 演習			
					解析学基礎Ⅰ			
					解析学基礎Ⅰ 演習			
					応用数学			
					情報数理			
					プログラミング概論Ⅰ			
					プログラミング演習Ⅰ			
	後期	2	F	特別支援教育概論	代数学基礎Ⅱ	教育統計Ⅰ		数理科学英語
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	代数学基礎Ⅱ 演習			
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法(中等)	集合・位相Ⅱ			
					集合・位相Ⅱ 演習			
					解析学基礎Ⅱ			
					解析学基礎Ⅱ 演習			
					数値解析			
					情報理論			
					離散数学・オートマトン			
					数学科教育法Ⅰ			
	前期	2	G	教育課程論	代数学Ⅰ	人権教育論		
		3	K	教育方法論(情報通信技術の活用を含む。)	代数学演習			
		3	M	教育相談の理論と方法(中等)	幾何学Ⅰ			
					幾何学演習			
					解析学Ⅰ			
					解析学演習			
					微分方程式論Ⅰ			
					微分方程式論演習			
					複素関数論Ⅰ			
					複素関数論演習			
					人工知能概論			
					人工知能実験			
	後期				数学科教育法Ⅱ			
					代数学Ⅱ	道徳教育と学級経営		
					幾何学Ⅱ	教育評価		
					解析学Ⅱ			
					微分方程式論Ⅱ			
					複素関数論Ⅱ			
					数理統計学			
					確率解析学			
					データサイエンス演習			
					実践データサイエンス			
					ゲーム理論と最適化手法			
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習(中・高)				
	通年	4		高等学校教育実習				卒業研究

＜理工学部・理工学科＞（認定課程：中一種免（理科）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・理科全般を学ぶ上での基盤となるコンピュータ活用による解析法を習得する。 ・物理学、化学及び生物学に関する知識を習得する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・物理・化学に関する知識を習得する。
2年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・物理学・化学に関する専門的知識を習得する。
	後期	・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・物理学・生物学に関する専門的知識を習得する。 ・物理学に関する実験技法を習得する。
3年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・道徳教育の理論と指導方法について理解する。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・物理学・生物学・地学に関する専門知識を習得する。 ・地学に関する実験技法を習得する ・理科教育法（教材研究・コミュニケーション等）についての応用知識や技法を習得する。
	後期	・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・地学に関する知識を習得する。 ・生物学・化学に関する実験技法を習得する ・理科教育法（教材研究・コミュニケーション等）についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・理科各分野・理科教育法の理解をもとに理科学科教員としての実践的指導力を身に付ける
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・理科各分野・理科教育法の理解をもとに理科学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

<理工学科>（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	物理学概説		日本国憲法	
					化学概説		体育実技Ⅰ	
					生物学概説		英語A	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概説	基礎力学		体育実技Ⅱ	物理演習
					基礎化学A		英語B	化学演習
					基礎化学B			
2年次	前期	2	B	教育原理	物理数学A			波動
		2	E	発達と学習の心理学	物理数学B			回路理論
					物理数学C			
					解析力学I			
					熱力学			
					無機化学Ⅰ			
					有機化学Ⅰ			
	後期	2	F	特別支援教育概論	物理学実験A	教育統計Ⅰ		物理数学D
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	電磁気学I			
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	解析力学II			
3年次	前期				基礎統計力学I			
					分子生物学			
		2	G	教育課程論	量子力学I	人権教育論		固体物理学
		3	H	道德教育の理論と方法	電磁気学II			放射線物理学
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	基礎統計力学II			
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	基礎地学実験			
					基礎化学実験			
					基礎生物学実験			
					地学概説			
					宇宙物理学			
	後期				分子遺伝学			
					中等理科教育法Ⅰ			
					中等理科教育法Ⅱ			
					量子力学II	道德教育と学級経営		相対論
					電磁気学III	教育評価		物性物理学
					統計力学			
4年次	前期				中等理科教育法Ⅲ			
					中等理科教育法Ⅳ			
	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				卒業研究
		4		中学校教育実習Ⅱ				

＜理工学部・理工学科＞（認定課程：高一種免（理科）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・理科全般を学ぶ上での基盤となるコンピュータ活用による解析法を習得する。 ・物理学、化学及び生物学に関する知識を習得する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・物理・化学に関する知識を習得する。
2年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
	後期	・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・物理学に関する実験技法を習得する。
3年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・地学に関する実験技法を習得する ・理科教育法（教材研究・コミュニケーション等）についての応用知識や技法を習得する。
	後期	・教科に関するより専門的な考察を実施することで、学習指導、教科指導をより発展的に理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・地学に関する知識を習得する。 ・理科教育法（教材研究・コミュニケーション等）についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・理科各分野・理科教育法の理解をもとに理科学科教員としての実践的指導力を身に付ける
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・理科各分野・理科教育法の理解をもとに理科学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

＜理工学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		教育の基礎的理解に関する科目等			具体的な科目名称			
		科目区分	必要事項	科目名称	教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	2	D	現代教育論	物理学概説		日本国憲法	
					化学概説		体育実技Ⅰ	
					生物学概説		英語A	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概説	基礎力学		体育実技Ⅱ	物理演習
					基礎化学A		英語B	化学演習
					基礎化学B			
2年次	前期	2	B	教育原理	物理数学A			波動
		2	E	発達と学習の心理学	物理数学B			回路理論
					物理数学C			
					解析力学Ⅰ			
					熱力学			
	後期	2	F	特別支援教育概論	物理学実験A	教育統計Ⅰ		物理数学D
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	電磁気学Ⅰ			
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	解析力学Ⅱ			
3年次	前期				基礎統計力学Ⅰ			
		2	G	教育課程論	量子力学Ⅰ	人権教育論		固体物理学
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	電磁気学Ⅱ			放射線物理学
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	基礎統計力学Ⅱ			
					基礎地学実験			
					地学概説			
					宇宙物理学			
					中等理科教育法Ⅰ			
					中等理科教育法Ⅱ			
	後期				量子力学Ⅱ	道德教育と学級経営		相対論
					電磁気学Ⅲ	教育評価		物性物理学
					統計力学			
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		高等学校教育実習				卒業研究

＜理工学部・理工学科＞（認定課程：高一種免（情報）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・情報各分野の基礎について理解する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・情報各分野の基礎について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
2年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・情報各分野の知識を修得する。 ・専門科目における教科に関する科目を修得する。 ・情報に関する実験技法を習得する。
	後期	・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・情報に関する実験技法を習得する。
3年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する ・情報科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての基礎知識や技法を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
	後期	・情報科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
4年次	前期	・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける
	後期	・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に迫及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

<理工学科>（認定課程：高一種免（情報））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論			日本国憲法	データサイエンスⅠ
							体育実技Ⅰ	
							英語A	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概説			体育実技Ⅱ	知能情報システム工学入門
							英語B	情報ネットワーク工学入門
								データサイエンスⅡ
								コンピュータプログラミング
2年次	前期	2	B	教育原理	データ構造とアルゴリズム			プログラミング概論Ⅰ
		2	E	発達と学習の心理学	計算機アーキテクチャ			プログラミング演習Ⅰ
					センサープログラミング実験			情報数理
					技術文書作成			応用数学
	後期	2	F	特別支援教育概論	プログラミング概論Ⅱ	教育統計Ⅰ		情報技術者キャリアデザインⅡ
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	プログラミング演習Ⅱ			情報理論
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	オペレーティングシステム			数値解析
					データベース			
					情報システム実験			
					コンピュータグラフィックス演習			
3年次	前期	2	G	教育課程論	プログラミング概論Ⅲ	人権教育論		人工知能概論
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	プログラミング演習Ⅲ			人工知能実験
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	並列分散処理			
					情報社会とセキュリティ			
					情報ネットワーク			
					情報ネットワーク実験			
					情報科教育法Ⅰ			
	後期				信号処理	道德教育と学級経営		情報技術者キャリアデザインⅣ
					マルチメディア情報処理	教育評価		実践データサイエンス
					ソフトウェア工学			データサイエンス演習
					ソフトウェア協同開発実験			
					ネットワークシステムとクラウド			
					情報科教育法Ⅱ			
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（中・高）				
4年次	通年	4		高等学校教育実習				卒業研究

<理工学部・理工学科>（認定課程：高一種免（工業）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・工業各分野の基礎について理解する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・工業各分野の基礎について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
2年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程と教育課程の意義及び編成の概要について理解する。 ・工業各分野の知識を修得する。 ・専門科目における教科に関する科目を修得する。 ・工業に関する実験技法を習得する。
	後期	・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・工業に関する実験技法を習得する。
3年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する ・工業科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての基礎知識や技法を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
	後期	・工業科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・工業高校における職業指導について理解する。
4年次	前期	・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・工業各分野・工業科教育法の理解をもとに工業科教員としての実践的指導力を身に付ける
	後期	・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に迫及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・工業各分野・工業科教育法の理解をもとに工業科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第 7 号ウ（教諭）
<理工学科>（認定課程：高一種免（工業））
（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論			日本国憲法	データサイエンスⅠ
							体育実技Ⅰ	理工概論
							英語A	
							情報基礎概論	
	後期	2	C	教職概説			体育実技Ⅱ	データサイエンスⅡ
							英語B	基礎電気回路
								基礎電磁気学
								機械システム工学概論
								機械エネルギー工学概論
								建設力学基礎
2年次	前期	2	B	教育原理	工業力学			機械数学基礎
		2	E	発達と学習の心理学	流体力学			
					機械工作			
					機械工作実習Ⅰ			
					機械熱力学			
					材料力学			
	後期	2	F	特別支援教育概論	流体力学	教育統計Ⅰ		機械製図基礎
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	機械設計			機械数学応用
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	機械工作実習Ⅱ			
					機械力学			
3年次	前期	2	G	教育課程論	機械エネルギー工学実験	人権教育論		
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	機械要素設計製図			
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	機械システム制御			
					工業科教育法Ⅰ			
	後期				機械システム工学実験	道德教育と学級経営		創造工学演習
					機械工学設計製図	教育評価		
					エネルギー輸送学			
					工業科教育法Ⅱ			
	集中				工業概論			
					職業指導（工業）			
4年次	前期							
	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		高等学校教育実習				卒業研究

＜農学部・生物資源科学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・理科（物理学、化学、生物学）の知識を習得する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・理科（化学、生物学）の知識を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
2 年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・生徒の心身の発達および学習の課程について理解する。 ・理科に関する実験技法を習得する。
	後期	・理科（地学）の知識を習得する。 ・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・理科に関する実験技法を習得する。
3 年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・道徳教育の理論と指導方法について理解する。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する。 ・理科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての基礎知識や技法を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
	後期	・理科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
4 年次	前期	・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。
	後期	・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集团的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

様式第7号ウ（教諭）
<農学部・生物資源科学科>（認定課程：中一種免（理科））
（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	物理学		日本国憲法	
					化学		体育実技Ⅰ	
					生物学		英語A	
							情報基礎概論	
							情報基礎演習Ⅰ	
	後期	2	C	教職概説	生物化学		体育実技Ⅱ	栽培学汎論
					生物統計学		英語B	土壌学
								食品科学
2年次	前期	2	B	教育原理	微生物学			環境基礎解析学Ⅰ
		2	E	発達と学習の心理学	応用力学			
					応用力学演習			
					生物学実験			生産情報処理学
					化学基礎実験			
					物理学実験			
					遺伝学			
	後期	2	F	特別支援教育概論	地盤環境学Ⅰ	教育統計Ⅰ		環境基礎解析学Ⅱ
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	環境水理学Ⅰ			
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	環境水理学演習Ⅰ			
					栄養化学			
					地学実験			
3年次	前期	2	G	教育課程論	地盤環境学Ⅱ	人権教育論		英書購読
		3	H	道德教育の理論と方法	応用微生物学			
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	測地学演習Ⅰ			
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	地球環境学			
					有機化学			
					分析化学			
					中等理科教育法Ⅰ			
					中等理科教育法Ⅱ			
	後期				干潟環境学	道德教育と学級経営		科学英語
					水環境学	教育評価		CAD利用学
					測地学Ⅱ			
					測地学演習Ⅱ			
					中等理科教育法Ⅲ			
					中等理科教育法Ⅳ			
4年次	前期							食資源環境科学演習
	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		中学校教育実習Ⅰ				
		4		中学校教育実習Ⅱ				卒業研究

＜農学部・生物資源科学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・理科（物理学、化学、生物学）の知識を習得する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・理科（化学、生物学）の知識を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
2 年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・生徒の心身の発達および学習の課程について理解する。 ・理科に関する実験技法を習得する。
	後期	・理科（地学）の知識を習得する。 ・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・理科に関する実験技法を習得する。
3 年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する。 ・理科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての基礎知識や技法を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
	後期	・理科教育法（教材・教具・コミュニケーション等）についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
4 年次	前期	・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。
	後期	・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集团的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

様式第 7 号ウ（教諭）
<農学部・生物資源科学科>（認定課程：高一種免（理科））
（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	物理学		日本国憲法	
					化学		体育実技Ⅰ	
					生物学		英語A	
							情報基礎概論	
							情報基礎演習Ⅰ	
	後期	2	C	教職概説	生物化学		体育実技Ⅱ	栽培学汎論
					生物統計学		英語B	土壌学
								食品科学
2年次	前期	2	B	教育原理	微生物学			環境基礎解析学Ⅰ
		2	E	発達と学習の心理学	応用力学			
					応用力学演習			
					生物学実験			生産情報処理学
					化学基礎実験			
					物理学実験			
					遺伝学			
	後期	2	F	特別支援教育概論	地盤環境学Ⅰ	教育統計Ⅰ		環境基礎解析学Ⅱ
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	環境水理学Ⅰ			
		3	L N	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	環境水理学演習Ⅰ			
					栄養化学			
					地学実験			
3年次	前期	2	G	教育課程論	地盤環境学Ⅱ	人権教育論		英書購読
		3	K	教育方法論（情報通信技術の活用を含む。）	応用微生物学			
		3	M	教育相談の理論と方法（中等）	測地学演習Ⅰ			
					地球環境学			
					有機化学			
					分析化学			
					中等理科教育法Ⅰ			
	後期				干潟環境学	道德教育と学級経営		科学英語
					水環境学	教育評価		CAD利用学
					測地学Ⅱ			
					測地学演習Ⅱ			
					中等理科教育法Ⅲ			
4年次	前期							食資源環境科学演習
	後期	4		教職実践演習（中・高）				
	通年	4		高等学校教育実習				卒業研究

<農学部・生物資源科学科>（認定課程：高一種免（農業））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・農業の知識を習得する。
	後期	・教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学）について理解する。 ・農業の知識を習得する。
2年次	前期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・生徒の心身の発達および学習の課程について理解する。 ・農業の知識を習得する。
	後期	・特別の支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法等を理解する。 ・特別活動及び総合的な学習時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・生徒指導及び進路指導について知識や素養を身に付ける。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。 ・農業の知識を習得する。
3年次	前期	・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成する教育課程と学習指導要領の関係について説明できる。 ・教育の方法及び技術を理解し身に付ける。 ・教育相談の理論及び方法を理解する。 ・高等学校農業科で扱う科目内容・教育方法について理解する。 ・農業の知識を習得する。
	後期	・高等学校農業科で扱う科目内容・教育方法について理解する。 ・農業高校における職業指導について理解する。 ・農業の知識を習得する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、講義、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。
	後期	・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。

<農学部・生物資源科学科>（認定課程：高一種免（農業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	D	現代教育論	アグリキャリアデザイン		日本国憲法	基礎数学
							体育実技Ⅰ	基礎統計学
							英語A	
							情報基礎概論	
							情報基礎演習Ⅰ	
	後期	2	C	教職概説	栽培学汎論		体育実技Ⅱ	
					土壌学		英語B	
					農業ICT学			
					農学概論			
					食品科学			
					農業経済学			
2年次	前期	2	B	教育原理	フィールド科学基礎実習Ⅰ			
		2	E	発達と学習の心理学	園芸学			
					植物生理学			
					農業気象学			
	後期	2	F	特別支援教育概論	食用作物学			
		3	I J	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	畜産学	教育統計Ⅰ		
		3	N I	生徒・進路指導の理論と方法(中等)	フィールド科学基礎実習Ⅱ			
					食品衛生学			
					動物繁殖生理学			
					植物病理学			
3年次	前期	2	G	教育課程論	動物飼養管理学	人権教育論		科学英語
		3	K	教育方法論(情報通信技術の活用を含む。)	蔬菜花卉園芸学実験Ⅰ			施設園芸学
		3	M	教育相談の理論と方法(中等)	熱帯作物改良学実験Ⅰ			
					農業ビジネスマネジメント学			
					農業科教育法Ⅰ			
	後期				農業生産機械学	道德教育と学級経営		生物科学英語
					農業水文学	教育評価		生物情報処理演習
					農地環境工学			
					農薬化学			
					食品化学			
					作物学実験Ⅱ			
					職業指導(農業)			
					農業科教育法Ⅱ			
4年次	前期							生物科学演習Ⅰ
	後期	4		教職実践演習(中・高)				生物科学演習Ⅱ
	通年	4		高等学校教育実習				卒業研究